

医師になる 道筋

診療部長（麻酔科）
土井 克史



医師は、医師免許を取得している人だけが就くことができる職業です。この医師免許を取得するためには、医科大学や医学部のある大学へ進学することが絶対条件となっています。

大学では「病理学」や「生理学」「分子生物学」などの授業から解剖実習まで、医学に関する幅広い知識や技術を身につけます。

医師免許取得のために受験する国家試験では、「臨床上必要な医学及び公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識及び技能」を問うとされています。合格率はおおよそ9割にのびりますが、合格のためには6年間みっちり勉強しなければなりません。

しかし、この国家試験に無事合格しても、まだ一人前の

医師とは言えません。2004年から医学部生の卒業後の臨床研修が義務化しており、2年間以上の研修を積まなければ診療に従事することはできません。

基本的には、2年間「研修医」としてさまざまな研修を積んだのちに、自分の志望を決め、ようやく一人前の医師としてスタートすることになります。

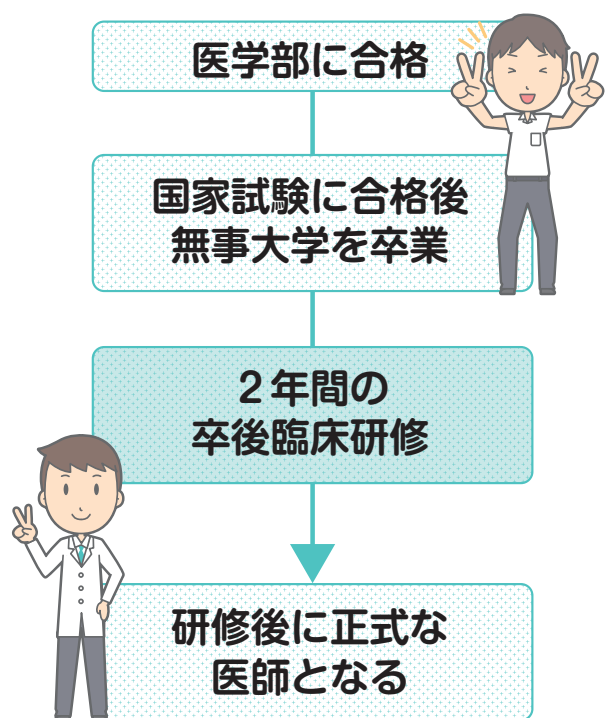
一般的に、医学部6年生の夏ごろから研修先を探します。2月にある国家試験に合格できれば、その就職先に4月から研修医として働くことになります。

2004年にスタートした初期臨床研修制度によって、当院のような田舎の中小病院の医師数が減少しました。また、地方大学病院の研修医数も減ってきました。

島根県ではその対策に多くの事業を行っていましたが、それらの施策をまとめて行う島根地域医療支援センターを2013年から立ち上げて初期研修医の勧誘、またその後の様々な研修に関する支援を充実させています。

当院も可能な限りの努力を行っており、その成果として2015年度は新たに8名の研修医が採用となり総勢12名となりました。

医師になるためには（例）



新しく仲間となった研修医に、現在の心境などをインタビューしました。

研修医 インタビュー

土井 沖田先生には今年の4月から浜田医療センターで研修を始めてもらいました。浜田出身ということですが、どうして医師を志したのでしょうか。

沖田 中学高校の頃から人助けの仕事がしたいと考えていました。両親が医療関係者だったので医療の世界に関心があり、医師を目指すようになりました。医療で一番わかりやすい職業が医師だったことも理由の一つですね。

土井 年を取っても勉強していろいろなことができるから、そういった面でもやりがいがある仕事と言えます。

沖田 働き始めて思うようになりました。

土井 出身は浜田で大学からは出雲の方へ？

沖田 そうですね。

土井 大学生活はどうでしたか。

沖田 大学生活は自由な時間も多く、楽しく過ごしました。何やっても楽しかったですし、いろいろなことをやりました。自由な時間を過ごしつつ、やるべきことはきちんとやりました。

土井 勉強はやはり大変でしたか。

沖田 もちろん大変でした。正直勉強が難しくテストのたびに苦労していました。

土井 それは昔からですね。私たちの時代から。

沖田 難しい試験では再試を受けることもありました。苦労はしましたが何とかストレートで卒業できました。夜遅くまで勉強することもあり、体力が付きました。人間必要に迫られたらできるんだと実感しました。



土井 国家試験は皆で広島に行きましたか。

沖田 はい。広島へ行って3日間の試験を受けました。3日間はさすがにしんどかったです。プレッシャーもあり試験は難しかったのですが無事合格することができました。

土井 国家試験を合格

して卒業後、浜田で臨床研修医として働いていますが当院を選んだ理由は。

沖田 出身ですし、最終的にはこちらに帰ってきたいので雰囲気を知っておきたかったです。一度市中病院で働いたこともあります。救急外来では軽症の人から重症の人まで来るので、そういった人を自分の頭と手を動かして診るなら大学よりもこっちなと思いました。

土井 高校生まで浜田に住んでいて、研修医として戻ってきたら変わったことはありませんでしたか。

沖田 高校生の時に歩いていた道を車で通ってみると景色が違いますね。あとは飲み屋を探すようになりました。ここにもできたのか、ここは入ったことがないなど。6年間でだいぶ浜田も変わったと思います。



土井 忙しい中、休みの日はどうしていますか。

沖田 だいたい寝ていて、普段は取れない睡眠時間をしっかり取っています。浜田には仲の良い友達がいるのでちょくちょく会いに行くこともあります。また、楽器が好きなので楽器店に行って長話をしています。

土井 何か楽器を？

沖田 ギターが好きです。同じ研修医の古志野先生もギターを買ったので一緒に練習しています。古志野先生と8月にはライブに出ます。



土井 将来はどうか具体的なことは決まりましたか。

沖田 ある程度方向性は決まってきました。経験を積むために大学に戻ろうと考えています。専門医の取得もしたいです。

土井 やはり同じところで働くよりもいろいろなところに行って、広い視野を持って研鑽をしていくことが大切ですね。

沖田 はい。しっかりと力を付けて浜田に戻ってきます。

次に、『研修医の一日の業務の流れ』を紹介いたします。

研修医の一日

ご紹介する研修医は、島根県邑南町出身の上田先生です。
総合診療科で学ぶ、研修医の一日を見てみましょう。



研修医(総合診療科)

上田 愛瑠萌 (うへだ・めるも)

出身大学

島根大学H26.3卒

出身地

島根県(邑南町)

趣味

スケート

当院について

みなさんに優しくして頂き、とても居心地が良いです。半年と短い間ですが、多くのことを学べるように努力していきたいと思います。よろしくお願いします。

消化器内科研修

7:30 抄読会(しょうどくかい)

研修医の抄読会が週に1回あります。英語に親しむため、英語の論文を読みます。



8:00 回診

担当患者さんに朝のあいさつ。
今日の状態を把握し、治療方針を考えます。



8:30 検査

指導医の先生に付いて腹部エコーや上部消化管内視鏡検査を行います。



10:00 病棟業務

検査の合間に、抗がん剤投与のためのルートをとったり、腹水・胸水を抜いたり処置を行います。



12:00 昼食

お弁当を作ってきたり、売店で買ってきたり。
研修医室でわいわい食べます。



13:00 検査

午後は下部消化管内視鏡検査です。
ERCP(内視鏡を用いて膵癌等を造影する検査)という特殊な検査を行うこともあります。



16:30 カンファレンス

消化器内科の患者さん全員について、現在の状態や治療方針を話し合います。担当患者さんのプレゼンはドキドキです。



17:30 回診

今日1日の様子を患者さんから聞き、治療効果の確認をします。



18:30 カルテ記載

わからなかったことを調べながらカルテを記載していきます。



20:00 帰宅

お疲れ様でした。

